

## Press Release

### お知らせ

一部の報道で、ダノンあるいはダノンジャパンが直接ミネロ牧場を運営するかの印象を与える記事がありましたが、正確には、ミネロ牧場を経営・運営するのは NPO 法人 FAR-Net です。ダノングループは、当社のエコシステムファンドからの資金提供、ダノンジャパンは、技術面での支援を行います。

なお、ダノンジャパンが製品に使用する生乳は、震災以前より、輸送による環境への影響を配慮し、主に工場のある群馬県を中心に栃木県、埼玉県より仕入れています。今回のミネロ牧場プロジェクトによって、仕入先を変更する予定はございません。製品に対する取り組みにつきましては、こちらをご覧ください。<http://www.danone.co.jp/announce/>

2012年5月23日

NPO 法人 FAR-Net

ダノンジャパン株式会社

## NPO 法人 FAR-Net とダノンの共同プロジェクト 震災復興と酪農業界の課題に挑む牧場 福島県内にオープン

NPO法人FAR-Net(2012年5月22日付けでFUNより改称)は、仏ダノングループのエコシステムファンドの支援のもと、共同型酪農経営モデルによる牧場「ミネロ牧場」を福島市内に開設します。

この新しい共同型酪農経営モデルは、酪農家の収益性および生活の質を向上させ、それによって高齢化や後継者不足に悩む酪農業界への若者の参画を促進し、日本の酪農業界全体の活性化を目指すものです。さらに、2011年の原発事故で被災した酪農家の就業機会を創出し、地域の酪農家をつなぐ場を提供します。

敷地面積およそ48,000平米の同牧場では、今年7月に生乳の生産が開始され、おもに福島県内の市場で流通する予定です。

### ■ 共同型酪農経営モデル「ミネロ・パイロットファーム・モデル」の特長

この経営モデルは、共同経営の形態をとることにより、従来の形態に多い家族単位による小規模経営に比較して土地や設備、家畜への大規模な投資が可能となり、生産量規模の拡大および収益の安定化を図ります。また、こうした形態をとることにより、勤務シフトを組むことが可能になり、酪農家の生活の質の向上も実現できます。

さらに、NPOが主体となり参画する酪農家に対し、共同経営の手法や大規模酪農について学ぶトレーニングを提供したり、地域の酪農家同士が情報交換をする場を創出することで、酪農家が経営や生産に関する能力を向上したり、新規参入者がノウハウを学びやすい環境を提供します。学生や一般の人に対しても、酪農体験プログラムや教育プログラムを実施し、社会貢献や地域とのつながりの強化や酪農への理解の促進を図っていきます。

### ■ 日本の酪農業界が抱える課題

日本の酪農業界は、かつて生乳の需給バランスをとるために計画的生乳生産を実施し、保有する乳牛の数を減らすなどの経営計画の変更を余儀なくされ、生産量の回復や新規の投資計画が困難でした。

また、家族単位で経営する模牧場では休みを取りにくいこともあり、後継者の不足や新規参入のしづらさなどにより、酪農家数および生乳生産量の減少を引き起こしています。

### ■ ミネロ牧場について

今回福島市内にオープンするミネロ牧場は、7月中に生乳の生産を開始し、年内には乳牛約150頭の規模とする予定です。2015年までには計200頭に拡大し、年間1700トンの生乳生産を目標にしています。当初の運営には、原発事故の影響により休業せざるを得なくなった酪農家5名が運営に参加し、今後も酪農業に関心をもつすべての方を対象に参加者を募っていきます。なお、ミネロ牧場で生産された生乳はすべて東北生乳販連に販売され、その後、市場への流通は、通常通り、東北生乳販連が決定します。

### ■ 放射線リスクへの対策

ミネロ牧場は、その土壌、水質、環境、使用する設備について、2011年10月にIRSN(フランス放射線防護原子力安全研究所)の監査を受け、問題なしという評価を受けています。また、飼料は主に輸入飼料を用います。同牧場で生産される生乳は、クーラーステーション(集乳所)ごとに週1回実施される県によるモニタリング検査および(県の検査以外の日に)週6回行われる福島県生乳委託者委員会(全農、福島県酪農業協同組合、小野町地区酪農業協同組合)によるモニタリング検査を受け、安全性が確認されます。

### ■ ダノン「エコシステムファンド」による支援

今回のミネロ牧場の開設にあたっては、仏ダノングループおよびダノンジャパンが同社のエコシステムファンドを通じて支援しています。エコシステムファンドは、ダノンを取り巻くあらゆるステークホルダーの成長や発展につながる支援を行うため、2009年に設立された基金で、これまで世界各地の39のプロジェクトを支援してきました。ダノンは、資金面の支援だけでなく、プロジェクト管理や経理、品質管理といった技術面での支援も行う予定です。ダノンジャパンの代表取締役社長ジョージ・ザリフィは次ぎのようにコメントしています。「日本の酪農業界に新たな光をもたらすミネロ・モデルの実現に向けて支援を提供できることを大変嬉しく思っています。このパイロットファームが日本の酪農家の希望となり、第二、第三のミネロ・モデル牧場が日本各地で生まれることを願っています。」

**NPO 法人 FAR-Net (福島農業復興ネットワーク、FUKUSHIMA AGRICULTURAL REVITALIZING NETWORK) について**

---

地域で暮らす人々が安全・安心な生活が送れるよう支援する事業を運営し、地域社会の活性化に寄与することを目的とする福島県郡山市に本拠地をおく特定非営利活動法人。2011年設立。

理事長 伊藤房雄(東北大学大学院農学研究科教授)、理事 岡 正宏(福島県酪農業協同組合生産部長)

#### **ダノンについて [www.danone.com](http://www.danone.com)**

ダノンは、世界でもっとも急速に成長を遂げている企業のひとつです。より多くの人に食を通じて健康をお届けすることを使命に掲げています。五大陸で製品を展開しており、グループ全体で180の製造拠点と約10万人の従業員を擁しています。2011年の売上高は193億ユーロ、そのうち半分以上は新興国での売上げです。チルド乳製品、乳幼児向け食品、ウォーターおよび医療用栄養食の4つのビジネスを核として、健康的な食生活をお手伝いする企業として確固たる地位を築いています。ユーロネクスト・パリに上場し、ダウジョーンズ・サステナビリティ・インデックスやASPIユーロゾーン、エティベル・サステナビリティ・インデックスといった主要な社会的責任投資インデックスに選定されています。

---

## ダノンジャパンについて [www.danone.co.jp](http://www.danone.co.jp)

ダノンジャパンは、25年以上にわたり、日本の消費者の皆様に栄養価のあるチルド乳製品をお届けしています。今日では、「ダノンビオ」、「ダノンデンシア」、「プチダノン」、「ベビーダノン」の製品を取り揃え、おいしさだけでなく、ヘルシーな食品をお届けしています。

### <参考資料>

#### ■ミネロ牧場の概要

- 所在地: 福島県福島市松川町水原(福島第一原発の北西67km)
- 敷地面積: 48,401平方メートル
  - 牛舎1棟: 2,333平方メートル
  - ホスピタルペン1棟: 164平方メートル
  - パーラー1棟: 324平方メートル; 10頭Wパラレル
  - 堆肥処理施設1棟 1,500平方メートル
  - 堆肥舎2棟: 1,740平方メートル
  - 倉庫2棟: 780平方メートル
- 家畜頭数: ホルスタイン種 乳牛150頭(2012年末までに取得)
- スタッフ: 計14名(うち運営スタッフ5名、契約従業員9名)
- 工事着工日: 2012年5月14日 (元牧場を所有者よりFAR-Netが借り受け、修繕・整備を行って運用)
- 生産開始時期: 2012年7月(予定)
- 出資者: 福島県酪農業協同組合(フクラク)、ダノンエコシステムファンド、ダノンジャパン株式会社(内訳は非公表)

#### ■ ダノンエコシステムファンドの概要

ダノンやその子会社を取り巻くすべてのステークホルダーの成長や発展につながる支援を行う目的で、2009年にダノンが設立した基金です。設立時に1億ユーロ、さらに2010年から5年間、年間純利益の最大1パーセントを加えていく仕組みです。2012年5月現在、世界各地で39のプロジェクトに支援を行っており、今回のダノンによる支援もこの一環です。

支援の対象となるプロジェクトは次のとおりです。

- 1) 雇用の創出や中小企業を支援する経済活動または企業家プロジェクト
- 2) 技術取得または再雇用を目的とする技術指導プログラム

同ファンドは、各国のダノン現地法人による提案から選定され、各地域の非営利団体との協力のもと、活動することが条件となっています。